

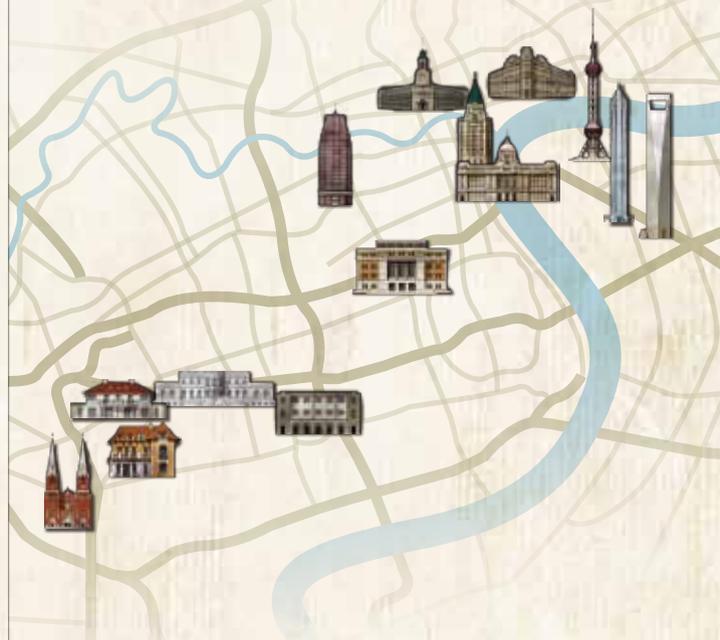


素晴らしい建造物は、さながら固形の音楽
 のようで、数奇なエピソードを持っていれば
 尚更である。上海を歩けば、特定の上海の歴
 史と文化を内に秘めた、交響楽のような建
 造物群が、我々がめったに得られない芸術
 味をもたらしてくれる。

では、かつての珠玉のようなエピソードに耳
 を傾けてみよう。趣の異なる町並みを抜け、
 古典建築という鍵で、上海の多元的文化を
 ひもとく門を開けてみよう。

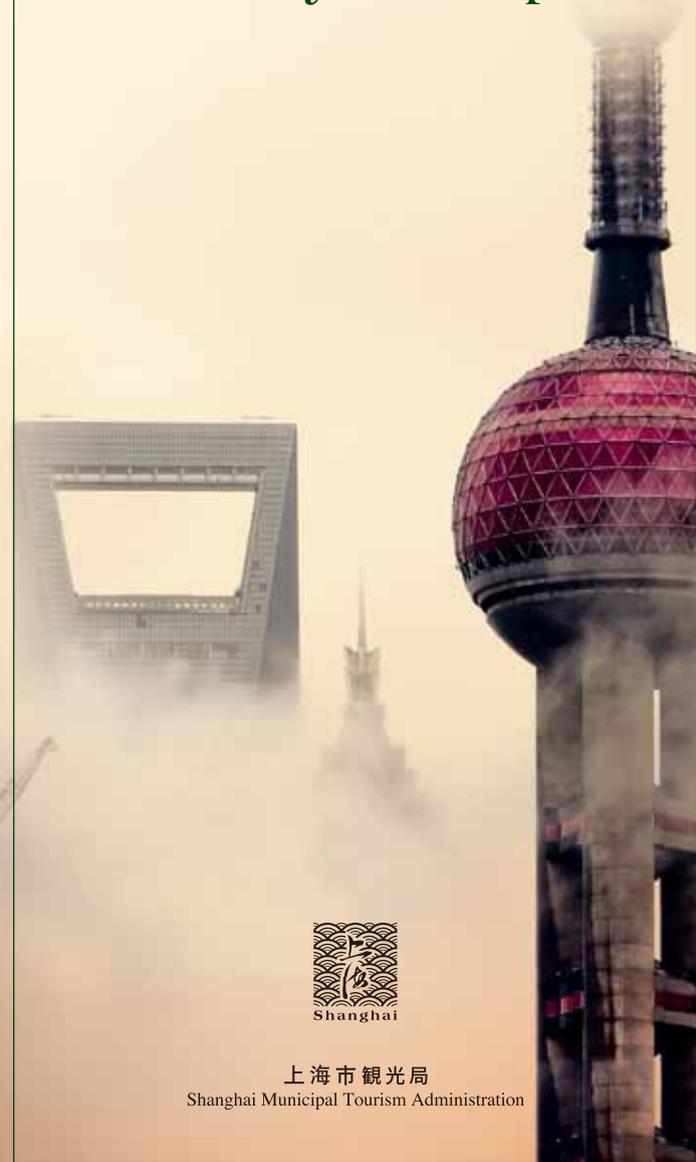


Architectural Stories of Shanghai



ARCHITECTURAL STORIES OF SHANGHAI

うつろう歲月古典建築
 More Discovery More Experience



 上海旅游热线 962020
 SHANGHAI TOURIST HOTLINE

 <http://www.shanghaitour.net>
 上海旅游网 <http://www.962020.com>

 <http://www.meet-in-shanghai.net> 上海会展旅游网
<http://www.shanghaikanko.com> 上海旅游网 (日本語)
 聚会 上海 <http://www.shanghaitrip.net> 上海旅游网 (韓国語)

604ZH(ZR)-2012-16000



上海市観光局
 Shanghai Municipal Tourism Administration

百花繚乱・万国への旅

外灘のシンボルは万国建築博覧群であり、外灘は上海のシンボルだ。中山東一路に沿ってうねうねと一列に並ぶ外灘の建造物群は、百余年の外灘の風雨と上海の変遷を見守り続けてきた。



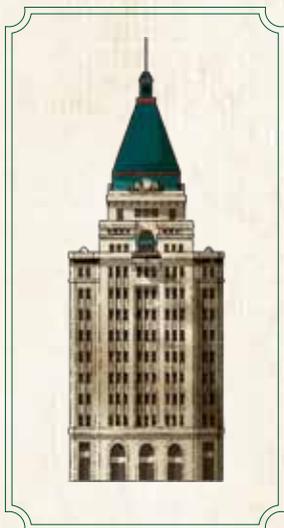
浦東発展銀行大楼

(旧匯豊銀行ビル)

- 📍 黄浦区中山東一路12号
- ★ 竣工年:1923年
- 🏗️ 設計者:パーマー&ターナー事務所 (公和洋行)

1930年代の外灘は東洋のウォール街と呼ばれていた。このビルは当時イギリスが極東に進出した中で最大の金融機関、匯豊銀行 (香港上海銀行) 上海支店として建立された。竣工後は広さと間口の大きさ、体積の大きさが外灘で最大の新古典主義の建物になり、イギリス人が「スエズ運河からベーリング海峡の間で最も優秀な建造物」と自慢した。

ビルの正面玄関わきにはイギリスで特注した銅のライオンが2頭いる。左側で咆哮しているのがステファン、右のはスティットだ。建物内部で最も美しい場所はドームをいろどるモザイク壁画。



和平飯店

(旧サッソンハウス)

- 📍 黄浦区南京東路20号
- ★ 竣工年:1929年
- 🏗️ 設計者:パーマー&ターナー事務所 (公和洋行)

上海に、かつての栄華の影を探しにきた外国人にとって、ここは「極東ナンバーワンのビル」だ。歴史的建造物が好きな人にとって、ここは上海近代建築史上初の完全なる現代派様式のビルであり、上海で最初に10階以上の高さを有した摩天楼だ。上海人にとって、この緑のトンガリ屋根は今でも外灘の目印だ。このビルのオーナーはユダヤ人富豪のヴィクタ・サッソン。当時、ビルの殆どはキャセイホテルとして使われ、ゴージャスさと気高さに惹かれて世界各地の著名人が宿泊した。1956年に和平飯店に改名し、2010年、最大限昔の姿に戻すための大規模な改修工事が行われた。



浦江飯店

(旧礼查飯店)

- 📍 虹口区黄浦路15号
- ★ 竣工年:1910年
- 🏗️ 設計者:デビス&トーマス事務所 (新瑞和洋行)

1846年、リチャードというイギリス人船長が礼查飯店 (リチャーズホテル) を建立。現在の浦江飯店の前身である。船長がオーナーなので、ホテルの中はあたかも一艘の巨大な汽船のようだ。そして当時の上海人にとって、最先端の代名詞のような場所だった。

なぜなら1882年に上海初のガス灯点灯テストが行われ、用意された15基のうち、7基はこのホテルに。上海初のサーカス公演会場。自動電話開通時の第一期電話設置単位の一つ・・・20世紀初頭にここは既に現在のホテルとほぼ同様の設備を有していたのである。ラッセルやアインシュタイン、チャップリンも投宿したことがある。



上海外灘華爾道夫酒店 (旧上海總會)	📍 中山東一路2号
上海海關	📍 中山東一路13号
Bund18 (旧麦加利銀行大楼)	📍 中山東一路18号
スウォッチ・アート・ピース・ホテル (旧匯中飯店)	📍 中山東一路19号
中国銀行ビル	📍 中山東一路23号
上海大厦	📍 北蘇州路20号
福州ビル、新城飯店	📍 江西中路170号、180号
工部局ビル	📍 漢口路193号
旧ドイツ郵便ビル	📍 四川中路200号

赤レンガが綴る熱情

にぎやかな徐家匯にはたくさんの上海派文化の起源に関する物語がある。徐家匯は徐光啓の故郷であり、彼が中西探学の道を築いた場所だ。20世紀初頭、赤レンガの建物が一棟、また一棟と上海徐家匯エリアに増えていった。当初は西洋の宗教建築物が多かった。上海で最初に西洋文化の洗礼を受けた場所と言えば間違いなくこの徐家匯。築百年の赤レンガがそれを証明している。

徐家匯天主教堂

- 📍 徐匯区蒲西路158号
- ★ 竣工年:1910年
- 👉 設計者:ダウドール&リード事務所のイギリス人設計士ダウドール

徐家匯は上海で最初にカトリック教が普及し、布教の中心になった場所だ。その歴史は徐光啓に由来する。彼は明朝廷の重臣で、中国最高位のカトリック教徒だ。外国人神父ラザロ・カタリーニョを地元徐家匯で開教のために招へいし、カトリック信者を増やした。その後カトリック教イエズス会は徐家匯に聖イグナチオ・カテドラル（聖依納爵堂）という聖堂を建立。信徒の増加に伴い、神父は新たな聖堂、つまり

現存する徐家匯天主教堂の建立を決める。典型的なフランスゴシック様式で双塔を有したレンガ造りの建物。地上57メートルの2本の鐘樓は南北に対峙しており、まっすぐそびえる2本の十字架に目を奪われる。

小紅樓

- 📍 徐家匯区衡山路811号
- ★ 竣工年:1921年

徐家匯緑地公園の隅にある小紅樓は大樹の陰に隠れている。赤いレンガを積んで出来ているのでこの名がついた。この小さな洋館は、1920年代以降の中

国流行歌の普及と発展の全軌跡を見届けてきた。

1921年にフランスのパテ・マルコニ社が上海に百代唱片製造公司を設立し、小紅樓をレコーディングスタジオとして使用した。1930年代、芸能界のトップスター、周璇、胡蝶、阮玲玉らはみな百代公司と契約しており、「夜上海」「夜来香」なども同社から世間へと広まった。当時は小紅樓の黄金時代だ。現在、上海屈指のスパニッシュレストランとして今なお多くの人に愛されている。

国際礼拝堂	📍 衡山路53号
武康大楼 (旧諾曼底公寓)	📍 淮海中路1850号
徐匯中学 (旧徐匯公学)	📍 虹橋路68号
黄浦大楼 (旧在上海日本国総領事館)	📍 黄浦路15号
楊樹浦水廠	📍 楊樹浦路830号

弄堂の物語

上海弄堂の中を歩いてみると、我々は石庫門のように中国と西洋の建築理念を備えた民居を見て気づくことがある。実用的な構造ながら意趣深い外観で、体裁と実務力をあわせ持つ、まるで「上海人」のような個性を持っているということに。1930年代、上海には色々なタイプの石庫門が約20万棟余りあり、1949年まで上海の88%の人々がこの建物に住んでいた。つまり生粋の上海の庶民文化を体験したければ、弄堂に足を踏み入れるべきなのだ。



田子坊

- 📍 黄浦区泰康路210弄

泰康路にある狭小な弄堂の入口から入ると、増築を繰り返して重なり合う旧式の民家が縦横に入り乱れる。ここは石庫門、最も上海色の強い民居住宅だ。石庫門建築は二階建てで、現在もこの二階に昔同様地元民が生活する。一階は多種多様なジャンルのショップがテナントで入っている。こだわりの見えるバーにカフェ、中華茶館、画廊、ハンドクラフトショップ、オリジナルレストランなど話題の店を求めて人出が絶えない。この迷路のような弄堂群がかの有名な田子坊、本物の「創意市場」だ。

首席公館	📍 新楽路82号
和平官邸	📍 汾陽路158号
同樂坊	📍 余姚路60号
新天地	📍 太倉路181弄、興業路123弄
四明邨	📍 延安中路913弄9-121号
尚賢坊	📍 淮海中路358弄
歩高里	📍 陝西南路287弄
中国共産党第一次全国代表大会会址	📍 興業路76号

都市文化の象徴

たくさんの文化がぶつかり、融合してできた独特のムードを持つ大都市、上海。上海には町と特別な黙約を交わした建造物が多々あり、海派文化生活がそのレンガ一つ、瓦一枚にしみついている。



上海音楽庁

- 📍 黄浦区延安東路523号
- ★ 竣工年:1930年
- 👉 設計者:範文照、趙深

1930年3月、上海初の中国人が設計・建立した映画館が完成した。新古典主義のこの劇場は南京大戲院と命名され、建物自体も導入設備も上海で最先端だった。アメリカのMGM社とフォックス社の新作独占放映権を得た同館は、数ヶ月連続で連日満員という大記録を打ち立てる。1946年4-5月には梅蘭芳が団員を引き連れて13日間公演し、大盛況を収めている。1959年、第一回「上海の春」コンサートをここで開催することになり、それ以後、コンサートホールへと変身した。そしてこの建物は上海の音楽の殿堂として君臨し続けている。

上海郵政総局ビル

- 📍 虹口区北蘇州路20号
- ★ 竣工年:1924年
- 👉 設計者:ジャーディン・マセソン



上海の「母なる川」蘇州河のビューポイントは四川北路橋の上。橋の北たもとにそびえる馬蹄型の洋風の建物、その最たる特徴は東南の角に位置する正面玄関上部には鐘樓と塔樓だ。ここは中国で最大規

模の郵政を代表する場所で、二階の営業ホールはかつて「極東一の営業ホール」と称賛された。また、上海郵便史を見続け、中国郵便行政事業の発展と開拓にも大きく貢献し続けた。二階は上海郵政博物館になっており、ここでしか見られない切手も展示されている。1986年、建物は永久性建築（恒久的建造物）に認定された。

華東政法大学 (旧聖約翰大学)	📍 万航渡路1575号
大光明電影院	📍 南京西路216号
蘭心大戲院	📍 茂名南路57号
沐恩堂	📍 西藏中路316号
1933老場坊	📍 沙涇路10号
江湾體育場	📍 政立路 150号
永安百貨大楼	📍 南京東路635号

プラタナスに隠れた個人邸宅

上海西部を歩いているとあちこちで見かける築年数の長い洋館。どの洋館にも美しい庭園があり、独特のエピソードを持っている。プラタナスの影で庭と引きたて合うこうした洋館を、上海人は「花園洋房」と呼ぶ。



宋慶齡故居

📍 徐匯区淮海中路1843号

この主人は20世紀の中国で最も偉大なる女性の一人、孫文の妻、宋慶齡だ。彼女と5人の兄弟姉妹はみな時代の風雲児として活躍し、「宋家」も中華民国時代の「四大家族」の一つだった。宋慶齡は上海で生まれ、1949年春にこの家に引っ越して来てから1981年に亡くなるまで、ずっとこの家に住んでいた。仕事の関係で北京に住む必要があった時も、北京に行くのは「出勤」、上海に戻るのを「帰宅」と言い、毎年必ず一定期間「帰宅」していた。樹齢百年以上のクスノキにぐるりと囲まれていた広い芝生の庭を持つ乳白色の花園洋房で、宋慶齡は毛沢東や周恩来、外国の元首と会見した。



上海工芸美術博物館

📍 徐匯区汾陽路79号 ★ 竣工年:1905年

汾陽路は緑が多く、一年四季を通して散歩に適した道だ。このフランスルネッサンス様式の洋館は、当時フランス租界最高の市政府組織であり、指導機関、公董局だった。真っ白な洋館には「上海のプチ・ホワイトハウス（海上小白宮）」というニックネームがつけられた。1943年に公董局総董官邸という歴史は閉じられる。その後は陳毅元上海市長官邸や中ソ友好協会の事務所として利用。1963年に工芸美術研究所が入ってから、上海の民間の優秀な工芸家や芸術家が結集。2002年、正式に工芸美術博物館となり、国内外から無数の観覧者が訪れている。

丁香花園	📍 華山路849号
仙炙軒（旧白公館）	📍 汾陽路150号
上海市作家協會	📍 巨鹿路675号
上海市少年宮	📍 延安西路64号
愛廬	📍 東平路9号

アールデコ・イン・上海

アールデコは1920年代早期に流行した装飾美術の様式で、世界建築史上で大きな位置を占める流派だ。1930年代に上海にも普及し、今なお上海に百軒近く残っており、ニューヨークに継いで二番目に現存するアールデコ建築が多い街になった。世界のアールデコ建築の「聖地」の一つとされている。



国際飯店

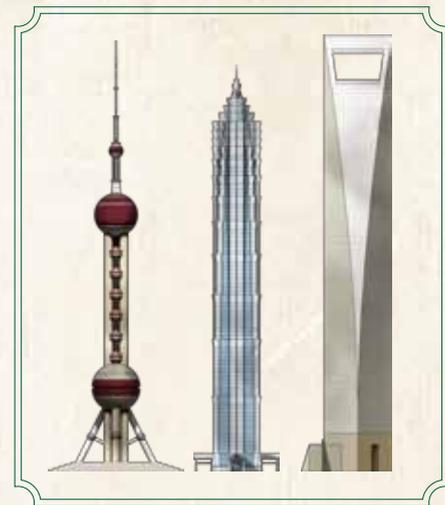
📍 黄浦区南京西路170号
★ 竣工年:1934年
👉 設計者:ハンガリー人設計士ラズロ・ヒューデック

早期アメリカの摩天楼を参考に設計された国際飯店は、数十年間ずっと上海で最も高い建造物だった。上海に関連した映画や文学には必ずこの建物が登場し、上海に来た旅行者は全員南京東路のこの建物を背景に写真を撮り、上海観光の記念にしていた。当時、上海のあまり硬いとは言いがたい地盤に初めて24階建の高層ビルを建てるのは挑戦でしかなかった。ここには数代にわたる上海人の思い出が刻まれているが、著名人の人生の一大イベントも刻まれている。例えば有名な社会活動家陳梅と「フライング・タイガーズ」の隊長クリア・リー・シェンノート（Chennault）との婚約式の会場であったり、ビルの高度な建築技術に魅せられた少年時代のイオ・ミン・ペイはこのビルに啓発されて、少年は建築の道を志し、生涯その道を歩み続けることになったと言われている。

百楽門	📍 愚园路218号
衡山賓館	📍 衡山路534号
美琪大戲院	📍 江寧路66号
国泰電影院	📍 淮海中路870号
常德公寓（旧エディンバラ公寓）	📍 常德路195号

上海の新たな顔

日進月歩する上海の発展に伴い、雲を突き抜けるほど高いビルや奇抜な構造、カラフルな色彩など多種多様な建物が次々に誕生している。彼らはこの上海の非凡かつ現代的なアクセサリだ。



東方明珠

テレビタワー

★ 竣工年:1994年
▲ 高度:468メートル

金茂タワー

★ 竣工年:1998年
▲ 高度:420.5メートル

SWFC

★ 竣工年:2008年
▲ 高度:492メートル

東方明珠塔から金茂大厦、そして環球金融中心。陸家嘴で上海の空との境界線が次々に刷新された。30年前まで高くても3階建の建物しかなかったこの外灘対岸の砂地は、瞬く間に陸家嘴金融貿易区へと変貌した。現在、あたかも中国の改革開放の前線基地であるかの如く、上海最高のランドタワーがここに集結している。

東方明珠塔内には地上267メートルに回転レストランがあり、黄浦江兩岸を余すところ無く見ることが出来る。階下には上海城市歴史發展陳列館もある。金茂大厦87階のクラウド9は地上330メートル余り、2000年度のギネスブックに「世界で最も高い位置にあるバー」と認定された。

上海ヒルズ94階の展望フロアは一番視界が広く、97階はガラスのルーフトップが開閉可能。100階は床がガラスになっているエリアもあり、雲の上を歩いている気分になれる。

上海博物館	📍 人民大道201号
上海大劇院	📍 人民大道300号
上海展覽中心	📍 延安中路1000号
上海東方芸術センター	📍 丁香路425号
上海科技馆	📍 世紀大道2000号
中華芸術宮	📍 上南路161号